

ロスナイセントラル換気ユニット 住宅用

形名

VL-25ZM

取付工事説明書







販売店・工事店さま用

- この製品の性能、機能を十分発揮させ、また安全を確保するために、正しい取付工事が必要です。取付工事の前に、この取付工事説明書をよくお読みください。
- 取付工事は販売店・工事店さまが実施してください。間違った工事は、故障や事故の原因になります。
- お客さまご自身の工事は、故障や事故の原因になります。





**別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。
取付工事が終わりましたらこの説明書とともに、お客さまに必ずお渡しください。**

1. 安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

 警告 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの	
 分解禁止	改造や工具を必要とする分解をしない 火災・感電・けがの原因。
 浴室取付禁止	浴室など湿気の多い場所には、本体・壁スイッチとも取付けない 感電・漏電の原因。
 指示に従い必ず行う	交流 100V を使用する 直流や交流 200V を使用すると火災や感電の原因。
	外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を選ぶ 新鮮な空気が取り入れられず、室内が酸欠状態になる原因。 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に 落下によりけがの原因。
 アース確認	端子台接続には、指定の電線を使用して、抜けないよう確実に接続する 接続に不備があると火災の原因。
 指示に従い必ず行う	配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。 漏電保護用に電源側へ漏電ブレーカーを使用する 漏電した場合火災の原因。 メタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取付ける 接触して取付けると、漏電した場合発火の原因。

安全のために必ず守ること つづき

 注意 誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの	
 禁止	高温（40℃以上）となる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所には取付けない 火災の原因。 塗料など有害ガス・腐食成分を含んだガスが発生する場所には取付けない 故障の原因。 下記の使用条件を超える場所へは取付けない 本体周囲温度 : 0℃～40℃ 本体周囲露点温度 : 12℃ (20℃60%相当) となる絶対湿度以下 排気空気温度 : 0℃～40℃ 外気温度 : -10℃～40℃ 相対湿度 : 80%以下 使用条件を超えた場合、結露水が滴下する場合があります。
 指示に従い必ず行う	本体およびダクト配管は断熱層・気密層の内側に設置する。断熱層の外側に設置する場合は別途断熱・気密処理を行う 断熱層の外側では、熱回収した空気温度の低下の原因。 コントロールボックスやメンテナンスカバーなどは操作後、必ず閉める ほこり・湿気などの浸入による漏電・感電の原因。 取付け後長期間使用しない場合は、必ずブレーカーを切る 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因。 取付けの際は手袋を着用する 着用しないとけがの原因。 部品の取付けは確実に行う 落下によるけがの原因。
 指示に従い必ず行う	本体から屋外へ向かう給排気ダクト（OA、EA）には断熱処理を行う 本体から室内へ向かう給排気ダクト（SA、RA）には必要に応じて断熱処理を行う 断熱処理はダクト接続口の根元まで確実に行う 結露により天井・床を濡らす原因。 塩害・温泉害の懸念される地域では ●腐食を考慮に入れてフードを選定し、フィルターボックスには塩害防止用フィルターを選定する ●沿岸仕様品は気密・断熱層の内側に設置する 腐蝕による落下、絶縁劣化による漏電火災や故障の原因。 本体固定用ボルト・ナット・ワッシャーは必ず指定のものを使用する 指定以外のものを使用すると、落下の原因。 本体から室外側の壁貫通のスリーブは長さ0.3m以上とし、室外に向かって1/30以上の下りこう配をつけ、断熱処理を確実に行う 雨水の浸入による漏電・火災や家財の損傷の原因。 給排気ダクトの先端には、雨水、雪、小動物（こもり等）が侵入しにくい構造のフードを選定する 雨水、雪、小動物の侵入による漏電・火災や家財の損傷の原因。 取付けの際は足元が不安定な台に乗らない 転倒などによりけがの原因。

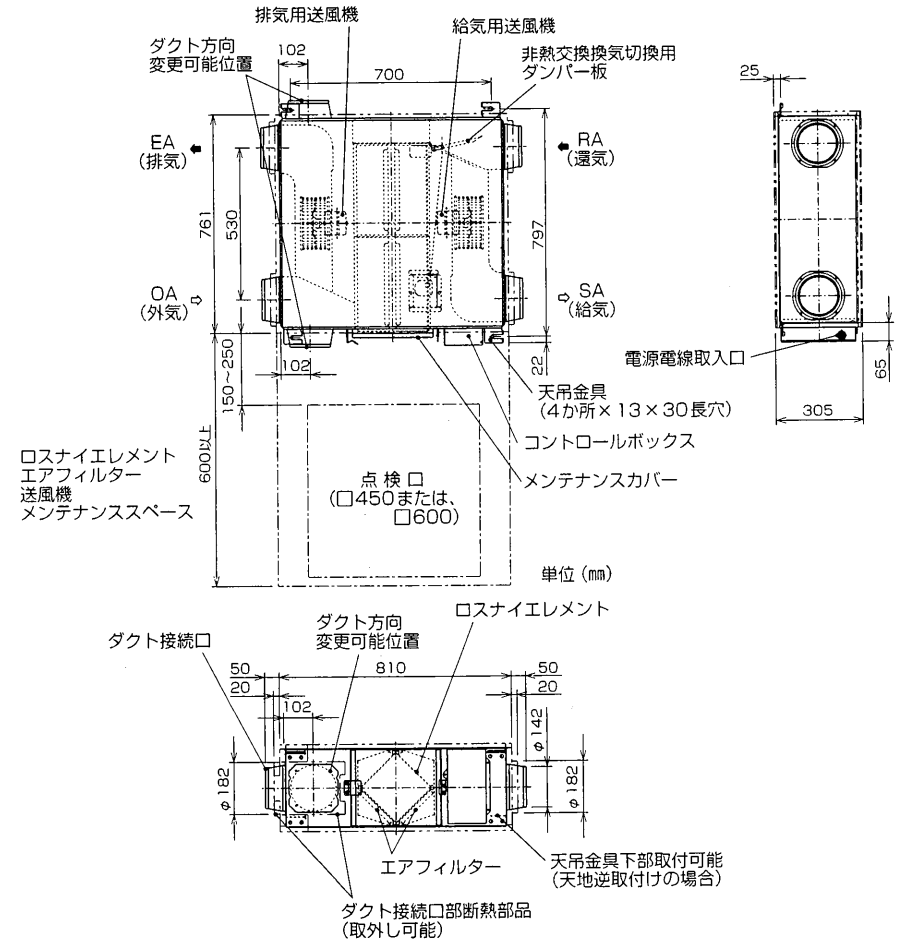
規制

システム部材の使用については、ダクトの材質、防火ダンパーの設置等、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁（特に消防署）にご相談ください。

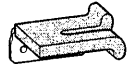







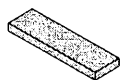
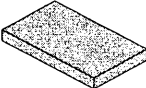
2. 正しくお使いいただくため 必ず守ること（施行前に必ずお読みください。）

- エアフィルター取出側には、メンテナンススペースを必ず確保してください。メンテナンススペースがない場合、メンテナンススペースまで修理に行けない場合に、本体修理またはメンテナンスで天井を壊す場合は、お客様の費用ご負担となります。あらかじめご了承ください。
- 換気ユニットおよび、ダクト配管はメンテナンススペースを含め気密・断熱層の内側に設置してください。天井断熱の小屋裏に設置する場合は点検口上部のメンテナンススペースは気密・断熱材で囲ってください。
- ダクト配管ははずれないよう、市販の固定バンド、アルミテープなどを用いて固定してください。
- 本体基本設置場所は、2階小屋裏とし、1階の天井裏に設置する場合は、下り天井など建築側で設置スペースを確保してください。
- 本体は寝室の近くに設置しないでください。また、建物の暗騒音が30dBを下回ることが求められる居室（寝室等）は、給気側に消音性のあるダクトや消音部材の使用をおすすめします。
- 天井材は共鳴しにくい材質をご使用ください。
- 給排気グリルは反響し難い場所に設置してください。
- 本体は水平から±1°の範囲で設置してください。
- 本体にねじれ、変形がないように設置してください。
- 給気・排気が混ざらない配管工事を行ってください。
- 浴室からの排気を接続しないでください。
- この製品は住宅の天井裏に取付けてください。それ以外の用途（業務用など）には使用しないでください。故障の原因となります。
- 換気ユニットのエアフィルターは質量法による捕集効率が82%です。このため一部の粒子や虫等が通過する場合があります。換気ユニット給気側（OA）と外気取込フードの間には必ずフィルターボックスを設置し、粒子や虫等が侵入しないように捕集効率がより高いフィルターを設けてください。粒子や虫等の異物侵入が起因となる不具合についての保証はできません。
- 排気側室内グリルには1インチ（25.4mm）当たり42～52個以上の網目を有するほこり取りフィルターを設けてください。ほこり取りフィルターがない場合、エアフィルター等の定期的な清掃（半年に1回）が必要になります。
- 設置工事およびメンテナンス時に工事用照明器具を使用する場合は、製品本体より500mm以上離してご使用ください。500mm以内で使用すると工事用照明器具の発熱により断熱材が変形し断熱性能を損なうおそれがあります。
- 次のようなダクト工事はしないでください。（風量低下や異常音発生の原因になります）
 - 極端な曲げ
 - 多数の曲げ
 - 吐出口すぐそばでの曲げ
 - しぼり
- 本体設置時耐震強度を十分確保するために、本体設置用のボルトの固定は指定の取付ピッチでM10または、M12以上のボルト1本あたり、25kgf以上の荷重に耐えるように施工してください。

3. 外形寸法図



付属部品

取付金具…4個 	取付金具用取付ねじ…8本 	ダクト固定ねじ…4本 (ワッシャー付) 	取付金具用断熱材…4個 (天地逆設置時使用) 	取付金具用断熱材①…4個 
取付金具用断熱材②…2個 	取付金具用断熱材③…2個 	取付金具用断熱材④…2個 	断熱材 (大)…2個 	断熱材 (小)…2個 
		幅広断熱材…4個 		

4. 取付方法

この製品の取付形態は、天井（天地正）・天井（天地逆）の設置、および室外側ダクト（OA、EA）の方向が90°変更可能です。そのため各取付形態により取付方法が異なりますので、外形寸法図および、お客さまご指定の住宅換気システム配管系統図を参照し、本体設置形態（天井・天地正・逆）および室外側ダクト（OA、EA）の方向をよくご確認のうえ、以下の手順をよくお読みになり取付けてください。

チェック欄	設置形態	参 照				
		固定金具取付	ダクト方向変更	断熱材の前処理	本体固定	
	天井・天地正設置	4-1	なし、4-3 あり、4-4	4-3 4-4	4-5	4-6
	天井・天地逆設置	4-2	なし、4-3 あり、4-4	4-3 4-4		

取付金具の取付け

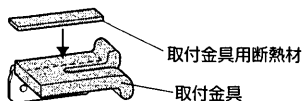
取付場所により取付金具の固定位置が異なりますので、外形寸法図および、お客さまご指定の住宅換気システム配管系統図を参照し、本体設置形態（天井・天地正・逆）および室外側ダクト（OA、EA）の方向をよくご確認のうえ、取付金具を固定してください。

以下の作業は、製品の傷つき防止のために製品本体の梱包材の上で行ってください。

4-1（天井設置の天地正取付の場合）

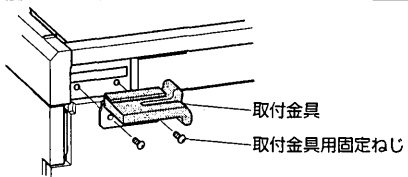
全ての断熱材は浮きやすき間がないよう、しっかり押さえ付け、密着させて貼り付けてください。密着させて貼り付けられない場合、結露発生の原因となります。

1



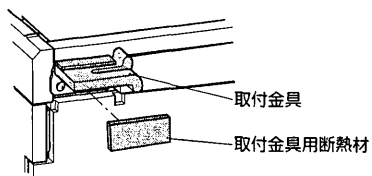
- 外形寸法図の取付金具位置を参照して本体固定用ボルトを設置する。
- 付属の取付金具（4個）へ、付属の取付金具用断熱材（4個）を貼り付ける。

2

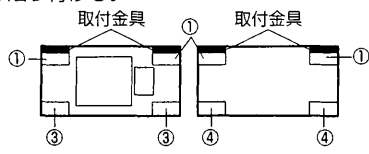


付属の取付金具（4個）を付属の取付金具用取付ねじ8本で取付ける。

3



付属の取付金具用断熱材①（4個）、③、④を下図を参照し貼り付ける。



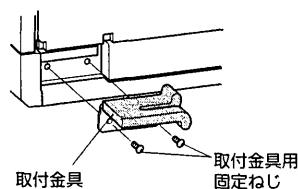
●断熱材の剥離紙に表示してある番号を確認して貼り付けてください。

取付方法 つづき

4-2（天井設置の天地逆取付の場合）

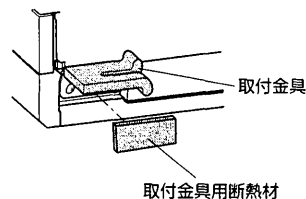
全ての断熱材は浮きやすき間がないよう、しっかり押さえ付け、密着させて貼り付けてください。密着させて貼り付けられない場合、結露発生の原因となります。

1

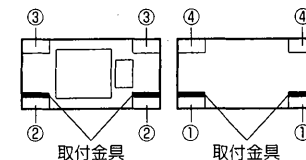


- 外形寸法図の取付金具位置を参照して本体固定用ボルトを設置する。
- 付属の取付金具（4個）を付属の取付金具用取付ねじ8本で取付ける。

2



付属の取付金具用断熱材①、②、③、④を下図を参照し貼り付ける。
●断熱材の剥離紙に表示してある番号を確認して貼り付けてください。



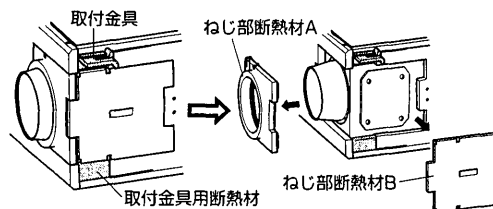
本体設置形態の確認および室外側ダクト接続口部断熱材前処理

外形寸法図および、お客さまご指定の住宅換気システム配管系統図を参照し、本体設置形態（天井・天地正・逆）および室外側ダクト（OA、EA）の方向をよくご確認ください。

4-3 室外側ダクト（OA、EA）の方向を変更しない場合

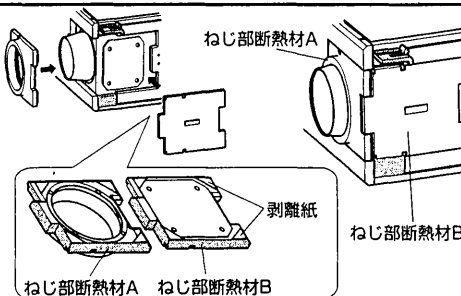
全ての断熱材は浮きやすき間がないよう、しっかり押さえ付け、密着させて貼り付けてください。密着させて貼り付けられない場合、結露発生の原因となります。

1



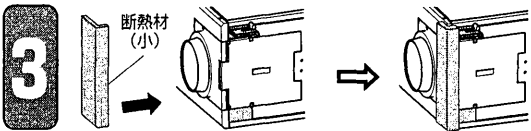
ダクト接続フランジにはめ込まれているねじ部断熱材A、Bとも取りはずす。

2

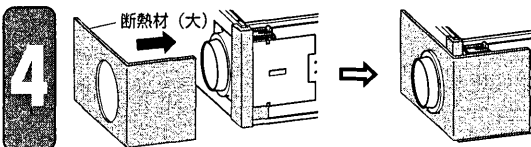


ねじ部断熱材A、Bの取付け

- ねじ部断熱材A、Bの裏面に張り付けてある両面テープの剥離紙（各4か所）をはがす。
- ねじ部断熱材A、Bを元通り本体にはめ込み、両面テープで密着させる。



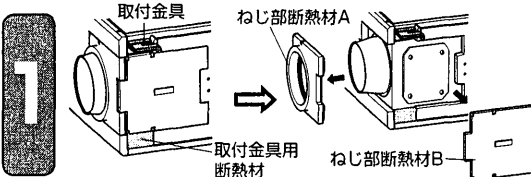
ねじ部断熱材 A、B の合わせ部に付属の断熱材 (小) を貼り付ける。



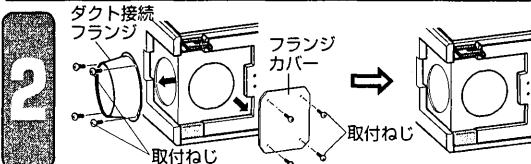
ねじ部断熱材 A、B 全面に付属の断熱材 (大) を貼り付ける。

4-4 室外側ダクト (OA、EA) の方向を変更する場合

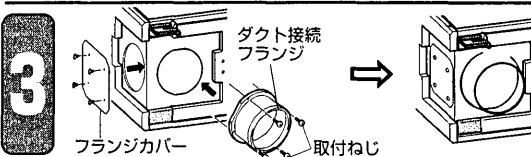
全ての断熱材は浮きやすき間がないよう、しっかり押さえ付け、密着させて貼り付けてください。密着させて貼り付けられない場合、結露発生の原因となります。



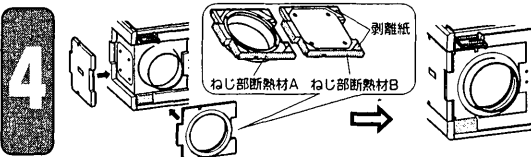
ダクト接続フランジにはめ込まれているねじ部断熱材 A、B とも取りはずす。



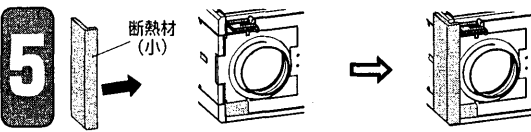
1. フランジカバーの取付ねじ (4 本) をはずし、フランジカバーを取りはずす。
2. ダクト接続フランジの取付ねじ (4 本) をはずし、ダクト接続フランジを取りはずす。



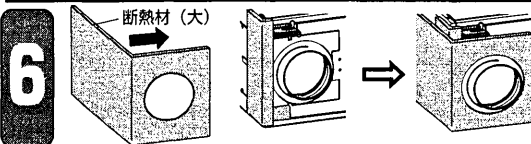
取りはずしたフランジカバーおよび、ダクト接続フランジの方向を入れ替え取りはずした取付ねじ (各 4 本) で締め付ける。



ねじ部断熱材 A、B の取付け
1. ねじ部断熱材 A、B の裏面に貼り付けてある両面テープの剥離紙 (各 4 か所) をはがす。
2. ねじ部断熱材 A、B を元通り本体にはめ込み、両面テープで密着させる。



ねじ部断熱材 A、B の合わせ部に付属の断熱材 (小) を貼り付ける。



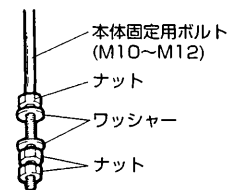
ねじ部断熱材 A、B 全面に付属の断熱材 (大) を貼り付ける。

取付方法 つづき

4-5 本体の固定

外形寸法図および、お客さまご指定の住宅換気システム配管系統図を参照し、本体設置形態 (天井・天地正・逆) および室外側ダクト (OA、EA) の方向をよくご確認ください。

1

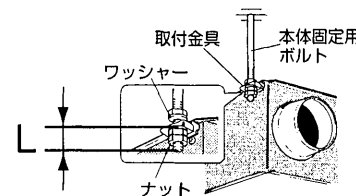


ワッシャー・ナットの取付け

あらかじめ埋め込んである本体固定用ボルト (市販の吊りボルト (M10~M12)) に左図のように市販のワッシャー (外径 M10 で 21mm 以上、M12 で 24mm 以上) ・ナットを取付ける。

※本体固定用ボルトは、現地手配品となります

2



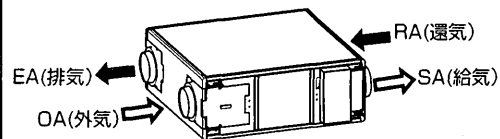
1. 取付金具を本体固定用ボルトに引っ掛け本体が水平になるよう調節する。
2. ゆるみ防止のためダブルナットで確実に締め付ける。

お願い

- 本体を固定する際、コントロールボックスに力がかかるような取扱いをしないでください。
- 本体固定用ボルトの取付金具からの飛び出し寸法 (左図 L 寸法) は 20mm 以下となるようにしてダクト接続の邪魔にならないようにしてください。
- 本体固定用ボルトは住宅躯体へ強固に固定してください。

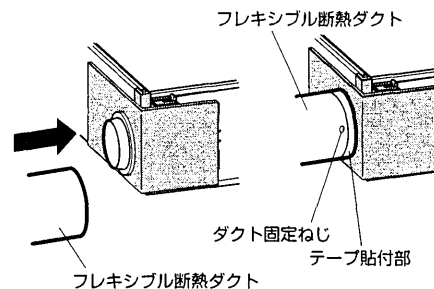
4-6 ダクトの接続

1



本体の側面に表示されているダクト方向を確認する。

2

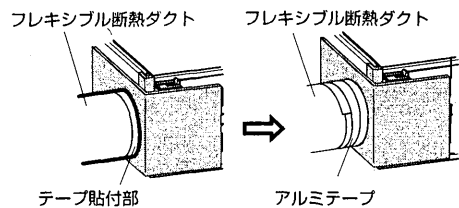


ダクト接続口にダクトをしっかり差し込み、ダクトが抜けないようにダクト固定ねじ (1 本) で固定する。

お願い

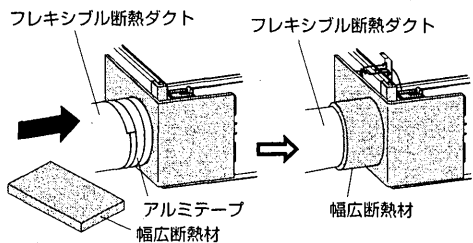
- ダクト固定ねじは、断熱材のかみ込み・巻き込みの防止の為、ねじ部に断熱材がかからないように締め付けてください。
- ダクトを曲げる必要がある場合は、曲げる方向の反対側をダクト固定ねじで固定してください。
- ダクトを配管上曲げる必要がある場合は、曲げ R はダクト径の 3 倍以上としてください。
- ダクト接続をする前にダクトの中に切り粉、異物 (紙・ビニールなど) が入っていないことを確認してください。
- ダクトは内側の構造体も一緒にしっかり差込んでください。

3



本体のテープ貼付部とダクトをアルミテープで風漏れのないように巻き付けて固定する。

4

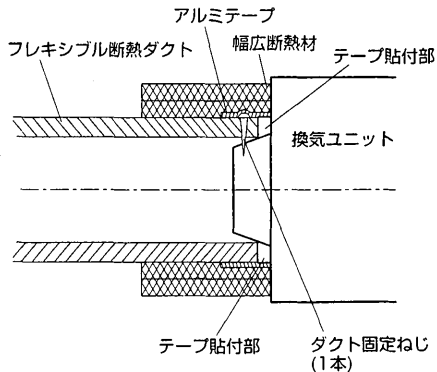


付属の幅広断熱材を2重に巻き付ける。

お願い

- ダクト接続をする前にダクトの中に切り粉、異物(紙・ビニールなど)が入っていないことを確認してください。
- ダクト接続後に各ダクト方向を確認してください。
- ダクトは本体に力が加わらないようにしてください。

断熱材貼り付け断面図

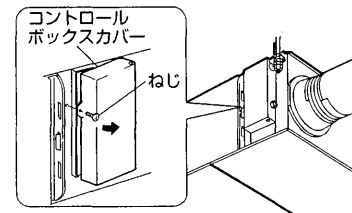


5. 電気工事

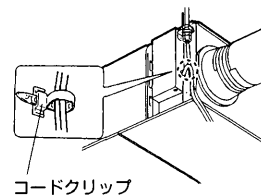


警告

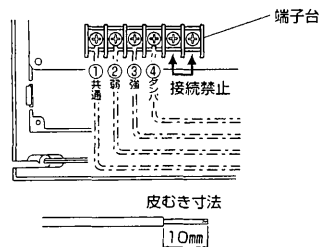
- 交流 100V を使用する
直流や交流 200V を使用すると火災や感電の原因。
- 配線工事は電気設備の技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う
接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因。
- 端子台接続には、指定の電線を使用して、抜けないよう確実に接続する
接続に不備があると火災の原因。



ねじ 1 本をはずして、コントロールカバーを開ける。



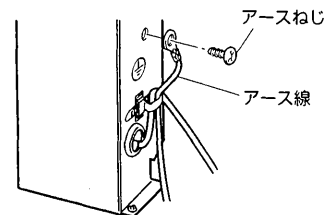
電源線をコードクリップで固定する。



電線(単線φ1.6 例 VVF)は結線図を参照し、コードブッシュを通して端子台に接続する。

お願い

- 電線の皮むき寸法は10mmとしてください。



アース線取付け (D種接地工事)

1. コントロールボックスカバーに締め付けてあるアースねじをはずして、アース線を取付ける。
2. 結線が終わったら元通りコントロールボックスカバーを閉める。

